

# 天竜川水系伊那圏域河川整備計画(原案) 公聴会 公述記録

平成23年3月8日 伊那合同庁舎

掲載は公述順です

公述人 1

皆さんこんばんは。荒井区の と申します。現在は区の方で議長を務めておりまして、小沢川対策特別委員会の会長を務めております。そんな関係で私共の小沢川についての公述ということでご発言をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。ベルが鳴る前に必ず終わるような簡単な公述で誠に申し訳ないですが、お願いをしたいと思います。

私達の住んでおります荒井区を流れております小沢川でございますが、先程ご説明がありましたように天竜川の優先整備河川として天竜川と小沢川ということで認定されているという様なことで、だいぶ県や市の関係の皆さんにご努力頂きまして 30年ほど前から工事が天竜川の接点の方から下流の方から進んで参りまして、皆さんの手元にあります 20,21 ページをご覧頂きます様に改良の方、相当進んできております。本当にありがたいことだと思っております。平成 18 年の梅雨前線の豪雨により洪水の被害の発生がありまして、その後 50 年に 1 回また大きなのが来るんじゃないかということの中からおかげさまで河川の掘削あるいは護岸工事を進めて頂いております。その中で今年度計画されております中新井橋周辺工事ですが、4 月頃からまた 30m くらい(整備 3 係に確認した所、実際は 74m)着工ということでお話を聞いておりますのでその辺を順調に進めて頂ければありがたいという様に思っております。

その現状計画されております更に上のことになりましたが、その 100m くらい河川の左岸ですね、左岸状況が今日も私は見て参りましたがあまり安定した状況でないというようなこともございますので、その 100m くらい上までを是非護岸状況を調べて頂き工事を進めるなり、その方策をとって頂きたいというように強く要望をお願いしたいという様に思っております。

荒井区のほとんど小沢区との境になってしまいますけど高橋病院さんから我々の荒井区の最後の方の鷲山さんの住宅の辺りの小沢川を見ますともうほとんど、小さな 5 歳の子でも下りてしまうくらい河床が上がっております。大きな洪水がありますと必ずあそこが決壊し、家屋あるいは道路に洪水が出て氾濫してしまうという状況でございますので、是非とも掘削作業による川底の低下、これを早めにそちらの方も進めて頂きたいということを強くお願いをしておきたいと思っております。私共の荒井区としてもですね小沢川愛護団体としてゴミ拾いやアレチウリ駆除等を行い、子供たちにも川シンポジウムを通じて河川に愛着を持つという様なことで努力を続けて参っております。

今まで他の河川に無い大きな工事の着工が進められておりますが、上流に関しても是非お願いをしたいと思います。以上でございます。

## 公述人 2

皆さんこんばんは。私は西春近小出島区のと申します。私の自宅ですが小黒川に面しております。毎年大雨の季節になりますと増水に敏感になりながら生活をしている所であります。その様な状況おかれた住民の立場といたしまして発言をさせていただきます。

まず、結論から申し上げます。基本的には伊那圏域河川整備計画本原案に賛成いたします。賛成はいたしますが、更に小黒川の整備計画を是非とも盛り込んで頂きたいというのが私の要望であります。限られた時間ですので3つの点について発言させていただきます。

まず最初に小黒川の災害と河川整備の状況ですが、西春近の川の下流域だけでも40年間で約5回くらい堤防が浸食されたり越流などが発生し、過去に3回ほど地域住民が高台の小学校などに緊急避難する事態が生じております。平成16年の台風23号による増水ではアパート「リバ-サイト」の上流域より水が溢れ出て住宅の床下まで水が流れて参りました。昨年9月小黒川治水砂防期成同盟会の関係者に危険箇所の視察をして頂きました。その結果、昨年10月よりJR小黒川鉄橋付近の河床浚渫を実施して頂き、本年1月から平成16年の越流箇所の護岸並び堤防の嵩上げ工事にとり掛かっていただいております。この迅速な対応に対しましてはこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

2つ目に具体的な要望です。記憶に新しい平成18年の豪雨災害ですが、後で発表された小黒川の土砂災害の説明によりますと、航空写真では小黒川流域には約70箇所くらいの崩壊地の存在が認められたとのこと。そこで2つの点を具体的に要望いたします。小黒川全域を測量して頂き危険想定雨量時に災害が発生しそうな箇所を予測して特定して頂きたいこと、2つ目にその予測に基づいて長期的な護岸整備計画を懸案に盛り込んで継続的な整備を実施して頂きたいこと。以上であります。

最後に河川整備の進め方について、あくまでも私の個人的な提案ではありますが、提案させていただきます。河川整備計画では危険箇所の測定の精度を上げて頂き、本当に必要な箇所に絞って整備の有効打が打てるように取り組んで頂きたいと思います。河川整備の耕地とは異なりますが、たまたま私の自宅の横に全く目的を果たしていない巨大なコンクリートで出来た塊があります。これは水が流れない、魚が通れない、魚道であります。一方この魚道は増水時には流れを妨げています。机に上ではなくて現場をしっかりと見つめて頂くことが、このような無駄を無くし限られた予算を有効に使うことにも繋がる事と確信しております。

繰り返しになりますが、危険箇所の測定に基づき、ここを最優先に整備すれば災害は最小に防御できるはずだ、などの過程をたてて下さい。増水時に過程をたてた担当者が現場で自分の目で検証をして頂きたい。そして検証に基づいて的を絞って整備計画の実行を実施して頂くこと。このプロセスを提案いたします。このことは小黒川に限ったことではありません。専門家ではありませんので、そのプロセスを踏んでいるようでしたらお詫び申し上げたいと思います。

最後になりますが、地域住民は市の一斉河川清掃も含めて河川の美化運動に努めて

います。またレジャーや利水等の恩恵も沢山受けていることに感謝しております。以上で私の公述を終わります。どうもありがとうございました。

### 公述人3

私、伊那市富県の大沢川検討委員会という形で北福地区にあります、その委員長を務める と申します。

私は今回の原案に賛成します。しかし、地元の大沢川が載っていません。然るに大沢川上流部河川計画整備計画の要望と共に併せて河川改修の早期実施のお願いです。昔から何代にもわたり荒れてきた川です。山が浅く急なため降水量そのものがあまり時間無く水嵩が増してきます。上流では大きな石が流れる音がし、大量の土石流となって荒れ狂います。床下浸水に何代にもわたり繰り返し発生しています。土砂・泥の処理には1週間から10日くらいかかります。去年は異常気象でしたが、ゲリラ豪雨という言葉も生まれました。これにも増して被害の拡大が予想されます。地区住人は何代にもわたり豪雨と戦ってきました。悩んだりもしました。整備計画にも記されている年号・回数その都度に襲われ氾濫による甚大な被害が発生しております。今回は平成11年集中豪雨による被害の写真により説明します。資料のところですが地図のところでは1199が間違っています1999に訂正をお願いします。6月29日伊那市の降水量が1日で113mmでした。6月30日伊那市降水量で夜半より朝までの6時間の区間で111mmの降雨がありました。床下浸水はデータでは8件となっていました但实际上は12件です。庭を流れたのは1件あります。冠水水田は12ありました。4時から6時川は満水状態で道路は河川状態になっておりました。7時に峠を越え水位が下がり始めました。8時になりましてかなり水量が減少となっています。70歳の方が写真を撮ることに気づき写真をとって頂きました。その内のですね1番の写真、ちょうど近所の方が積んでくれた土嚢ですが積みきれず床下浸水になりました。2番・4番の橋桁にはまだ水がついています。減量したんですがまだそういう状態であります。3番の横の水田には冠水状態が見られます。

市・県の事業にも私たちは参加してきました。アマゴの放流の子供の参加です。次に川シンポジウムに関するゴミ拾い、水質検査・ビオトープの写真です。次にアレチウリの駆除、各常会単位での大沢川清掃ならびに草刈り草焼きの実施です。これは毎年実施しています。去年ですが、信州ディステイネーションキャンペーンに向けた環境美化運動にも参加しました。

「手で触れて心で感じていい思い出を残そう」を合言葉に子供が大沢川の自然の中で遊ぶ姿を見ることを住民は久しく望んでいます。下福地区民が、未来を背負う子供たちが安全で安心な暮らしが出来ますよう、住民参加の整備計画と早期工事の着工をお願いしたいと思います。この様な公述の場を計画し与えて下さいましたことに感謝して終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

公述人 4

伊那市の 〇〇と申します。私は東春近下殿島の大沢川改修対策委員会そして大沢川河川愛護会の役員をしております。

意見を述べさせていただきます。大沢川でありますけれども川幅が狭く、大雨が降る度に川幅一杯に水が流れ洪水の発生の危険性が非常に高いという様に言われております。最近では昭和 57 年・58 年、それから平成 11 年に大きな災害を引き起こし、沿川に大きな被害をもたらしました。こういったことを受けて県では河川断面が小さく天井河川であり、優良農地と人家の多く存在するということで経済社会活動の安定に寄与するということのためにこの河川改修が実施をされております。下流部が改修された後、田原・下殿島地区の住民に対してアンケートが実施をされまして、ほとんどの方が「良かったなあ」という結論、そして上流部の未整備区域の早期着工を望む意見が大多数でありましたけれども、それを受けて毎年その河川改修の要望を行っているわけでありますけれども、まだ未着工の状況であります。

先程、河川整備計画案の説明がございました。その中で優先的な河川は天竜川と小沢川、20 年 30 年を目途にその 2 つの川の整備目標が記載されておりました、この計画案を見ました時に「大沢が落ちたんだな。」と、「毎年陳情してただけけれどもダメだったのかな。」という様な印象を受けたのは事実であります。毎年開催されております、大沢川の改修促進期成同盟会の総会の中でも県の皆様方から「下流の改修は画期的だったのだけれども、これからは県単事業を行うしかないのではないかな。まあピンポイントでの改修しかないのかな。」という様な発言がここ数年聞こえて参っております。まあこれは日本の現状の経済状況でありますとか、社会状況を踏まえた発言になるかも知れませんが今回示された河川の整備計画案を見てみますと、まあ長期的にやるのが小沢川と天竜川、その他の河川につきましては短期的に整備を行う。こんな風に河川整備計画、2 つの長期と短期を併せた計画という様に理解をしてしまいます。しかし、河川計画、整備計画というのはやはり治水・利水或いは環境等を勘案して計画を立てるということになりまして、現在の経済状況というのではなくて、やはり長期的に色んな視線にたったの計画が必要ではないかという様に考えております。そういった視線に立ったその環境を踏まえた整備計画というものを考えますと、2 つの河川以外にですね色んな河川が上がってくるのではないかと、こういったものもですね計画の中で是非入れて頂ければいいなあという印象を持ったところでございます。

最後でありますけれども、河川の維持の目的、種類及び施行の場所というところですね、先程河川愛護団体と協力して行うという様な内容でした。立木の伐採、草刈り等必要なことを行うという様なことが書かれてありましたけれども、先程前の方が説明されましたけれども河川愛護会、本当に毎年そういった事業を行っています。私共はですね、そういった草刈りだとか土砂の除去を県の方をお願いしているのですが、なかなかいい道がないということで整備計画の中にこういった文言が載せられたわけであります。是非、こういった計画に沿ってですね実行して頂ければという様に思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。以上です。

# 天竜川水系伊那圏域河川整備計画(原案) 公聴会 公述記録

平成23年3月9日 岡谷市役所

掲載は公述順です

公述人 5

こんばんは。岡谷市今井地区の といいます。数年前に下諏訪町の砥川流域協議会に参加をいたしました。そんな関係で若干水については興味がありまして今回の整備計画について縦覧を拝見させて頂きました。その様な中から数点気が付いたこと、自分の思いを5点ほど今晚は述べさせて頂きたいと思います。プラス1になるかもしれませんがよろしくおねがいたします。

まず5点の内1点です。この整備計画全体まずは基本的に賛成をいたします。といいますのは先程の説明の中にも釜口水門下流、暫定整備を進めてきたという(部分的に)そんな話がありました。私の知る限りでは400m<sup>3</sup>/s放流対応をしてきたということなんですが、基本は600m<sup>3</sup>/sということで地元は受け入れている。こういうことが言われます。ということでもありますので、今回提案されております500m<sup>3</sup>/s放流については基本的にその了解をしている範疇の中にあるという様な理解をしております。

それから今回の600m<sup>3</sup>/s放流を前提とした500m<sup>3</sup>/s放流の暫定整備という。こういうことなんですけれども、この暫定整備については表示では根切りをして根固工こういう右岸側なんだろうかね。多分600m<sup>3</sup>/s放流の整備をする段階では手戻りになる作業だと思えます。ですからこの整備計画で進めることも結構なんですけれども、出来れば維持管理的な整備手法でも可能ではないのかな。こんな思いがしております。

それから、この計画今まで関係地区と400m<sup>3</sup>/s放流については十分な協議をして進めてきておりますので、今後実施計画に際しましては関係の地元住民と十分な協議をして理解を得た上で進めて頂きたいこんな風に思います。

それからこの計画、岡谷区域が600m<sup>3</sup>/sですけれども下流についてはそれ以上になっているということが当然ありますし、600m<sup>3</sup>/sを受け入れてもらうという整理が必要になると思います。下流の方についても是非積極的に対応して頂くようなことをお願いと思います。

それから釜口水門の操作について最近新聞(私が見ているのは信濃毎日新聞なんですけれども)話題になっております。私は本来川の水というのは河床を流れるものだという様に思っております。当然、岩石・石・砂等が河床を低い方へ流下する、こういうことが自然の形だろうと思っておりますけれども、そんな様なことからゲートの操作についての、下部ゲートについてですね、何とかならないものかなという様な思いがあるんですが、今新聞で見るとは不可能だと、こういうことなんですけれども、単純に考えまして今言う私の前段で申し上げましたことを考えますと、最速の整備点検の期間を今以上にきめ細かく短期間でやって頂ければある程度その辺のクリアが出来るのかな、こんな風に思います。

最後に5つ目のその他のところなんですけれども、土木工事をされている皆さんは

黒田官兵衛とデ・レーケの2人のことは御存知だと思います。私たちに大きな教訓を残して頂いてるお二人でございますので、これから河川整備を進めていかれる段階では残された功績といいますかそんなものを是非心に留めて計画して頂ければ幸いかなこんな風に思います。以上です。

#### 公述人6

皆さんこんばんは。今名前を呼ばれました です。塩尻市北小野に居住しております。こういう制度があるというのをまず頭の中に全く入れておりませんので、今回このような機会があったので少し発言させて頂きたいと思います。あの先程説明のありました長い期間の係る整備計画は当然細部のことには触れられないわけですが、その中で少し計画の視点って言いましょうか、物の考え方について意見を述べたいということでもあります。

2006年にこの岡谷湊地区を中心にですね、辰野町それから塩尻市の北小野でも同様の現象がありましたし、一番南は伊那市の西春近地域で同じ様に山腹の一部が崩壊して河床の土砂が泥流化して下流へ大量に流れ出たという現象がございました。それに伴って天竜川本川のもので、箕輪町松島地籍で堤防が決壊する、それからあまり大勢が御承知でないかもしれませんが、辰野町徳本水という大勢の方が岩からの湧水を取りに来る所の道路が浸食を受けました。これらのその他ですね、各地で現況の河川断面が溢れた水が出たり道路の寸断が起きたりという様な当時起きました。その他急河道を現在堤防で仕切って利用している地域で(伊那市の天竜川地区など各所)で湧き水が出て一時避難かという様な状況が起きたりしていますが、これを振り返って見た時に計画に反映するものがあるんじゃないかということで、わたしは疑問形で要旨を出しました。

1番としてこれらの災害誘因、災害を引き起こした降水量(降雨)は現象を確率論で考えた時に何年に相当する雨であったかということ計画機関であるこの整備計画をまとめられた方たちはですね、すでに承知しておられるんだと思ったので疑問形で出しました。まあ私自身も必要がありまして手抜きをしながら、一日のもので確率量を検討したものは持ってはおりますが、こんな確率には我々に対応できないのではないかとことを思っております。何かといいますとインフラ整備等はですね基本的に100年に1度の現象に対応出来る様にといい視点で整備されてきました。それに対してどうであったかということでもあります。もう1点重要なことですね、1945年以降日本の土地利用状況が大きく変わりました。特に以前耕作していた様な所がですね森林に変わったりした、また当時小さかった森林がですね成長してその状況が変わってきているという現象もあるわけでありまして、どの様に計画に反映されているのかというのがまだ見えないところでもあります。後残りありませんので触れておきたい所だけ申します。今日の説明の中でも出ましたが、釜口水門、横川ダム、箕輪ダム3つのダムがあります。当然多目的で造られてますから、ゲート操作が連系をもっで行われていたのではないかと考えております。箕輪町の松島地籍の堤防決壊はもっと現況に応じた原因究明っていいでしょうか。それを解消する施策が盛り込まれる必

要があるという風に考えております。それから辰野町徳本水のところはですね、既に丁張りが行われておりました。あの断面の改修のですね丁張りが行われていたんですが、時間が来ましたんで終わりにしますが、田中知事の予算方針で中止になって災害を受けたという様な経緯もございます。技術者は責任を持ってその辺のことを改善していく必要があるかと考えております。失礼します。

# 天竜川水系伊那圏域河川整備計画(原案) 公聴会 公述記録

平成23年7月8日 辰野町役場

掲載は公述順です

## 公述人 7

辰野町小野在住の と申します。私はこの原案に関わる駒沢川に対しての意見を述べさせていただきます。

駒沢川は霧訪山から小野川合流までのたかだか4kmの非常に短い河川であります。また、標高差500mを一気に流れおりの急峻な川であります。1,305mの霧訪山に降った雨は洪水到達時間43分で稜線を下り、標高800mの小野川合流点まで到達します。あの穴あきダムの浅川が136分ですから、いかに早いかという事がございます。しかも河川整備計画原案の附図-7で見るとおり中流域で山に直角にあたり90度左折して山裾を削りながらそのまま下流域へと流れています。それ故に昭和36年、38年、46年の梅雨前線豪雨では、たびたび洪水による下流域での浸水を繰り返し、その都度、局部的な護岸整備が実施され、今日に至っております。地元としてはこの霧訪山の急流を受け止める水がめ、すなわち多目的ダムの設置によって水量調節を可能としたいとして参りましたが、今日の厳しい財政状況や住民ニーズの変化によって、ダムによらない30年に1回発生すると推定される洪水に耐えうる河川整備で対応する事で合意を致しました。

しかし、駒沢川の河川整備は上流域、中流域を優先的に整備して頂く事の重要性の加えて、上中下流域を通しての流下能力を高めるといった整合ある洪水対策にならなければ、ダムに代わる治水安全度を向上させる事は難しいと考えます。

一方、平成15年から来年24年まで15年をかけて駒沢川原流域の森林整備事業が着々と推進されております。針広混合林への誘導、すなわち、緑のダム化は昨年度までに計画の81%が完了し、河川整備をバックアップする重要な環境づくりとして、この事業と統合化されることによる相乗効果を大いに期待するものであります。以上の観点から近年の地球温暖化によると思われる、集中豪雨や平成18年7月の豪雨災害等を体験した地元住民はダム相当、すなわち、小野川合流点52m<sup>3</sup>/sを前提とした駒沢川の上、中流域の護岸工事、築堤工事や国道153号線に架かる鴛鴦橋の架け替え等も見通した抜本的な河川整備を早期に実現出来る事を切望しております。

この度、河川計画原案に駒沢川を追加いただいた事に対し、感謝申し上げます、私の意見発表とさせていただきます。ありがとうございました。

## 公述人 8

上島区の代理人の と申します。宜しくお願いします。

私は天竜川の支流横川川に合流する小野川について述べさせていただきます。







駒沢川ではダム計画と同等の治水安全度を確保することを前提に整備を早期に着手して頂きたい。

利水についても住民が安全安心で利用できるよう早期に着手して頂きたい。以上を踏まえて協議会としてもダムによらない治水、利水の対策を3月30日に県知事あてに提出した次第でございます。